



たかせ

心ゆたかに たくましく
かしく保てる
伊賀の子

年度末PTA ありがとうございました

今年度最後のPTAを、昨日の2月18日（木）に行いました。今回もまた「健康チェックシート」の提出や、密にならない配慮をしていただきまして、誠にありがとうございました。61名の保護者のみなさんに来ていただきました。授業を見てもらっている時の子どもたちの柔らかな表情が印象的でした。見てもらえるというのは、やはりうれしいですね。

授業を見て子どもたちの成長を感じていただけたでしょうか。課題も見えたものと思いますが、立てためあて・目標が十分に達成されていなくとも、子どもたちが積み重ねてきた1年の営みの重さは、何にも変えられない貴重なものです。広い視点から子どもたちのよさを取り上げ、「自己有用感」を高めて次のステージに送り出すことも私たちの役目であると思っております。この時期だからこそ、プラスの視点で子どもたちに関わっていきたいと思います。お家でも、よろしくお願ひいたします。

【1年生：給食試食・生活科】



【2年生：生活科】



【3年生：図工】



【4年生：総合】



【5年生：理科】



【6年生：学級活動】



一日入学・入学説明会

2月10日（水）に、一日入学と入学説明会を行いました。

こども園との交流は、例年のようになかなか行うことができず、新1年生のみなさんをしっかりと見ることができた初めての機会だったと思います。人数は6人（たしろこども園4名・せんだうこども園2名／男子4名・女子2名）で、落ち着いた素直な人たちだというのが第一印象でした。半面、みんな体が大きくて、入学後はどんなパワーを見せてくれるのか楽しみにもなりました。4月8日（木）の入学式を、高瀬小学校全員で楽しみながら待ちたいと思います。

【うれしかったこと！】

現在の1年生たちは、校内探検・音楽のプレゼント・しっぽ取りゲームで、新1年生をお迎えしてくれました。緊張している新1年生への接し方がとても丁寧で、優しい声かけもとても素敵でした。お兄さん、お姉さんの雰囲気がたくさん出ていて、新1年生も笑顔を見せてくれたことが、とてもうれしかったです。お兄さん、お姉さんたち…本当にありがとうございました！



授業参観はいかがだったでしょうか。お子さんの成長している姿を見ることができたでしょうか。詳しい成長については、この後の学級懇談で聞いていただければと思います。私からは、学校全体にかかわることについてお話しさせていただきます。

学習面については、毎年4年生以上が行っております「秋田県学習状況調査」におきまして、各教科の平均正答率は、全ての教科で秋田県の平均を上回っているといった素晴らしい状況でありました。授業・家庭学習を基に、着実に学力の定着が図られていることが伺えます。

半面、生活面では「自分にはよいところがある」を「当てはまる」と答えた「たかせっ子」は、県平均よりも7.7%低い数値でした。依然として課題であります。しかし、今年度の1学期末PTAの時に話をさせていただいた昨年度の数値は、マイナス11.6%でありましたので、今年度は3.9%程、改善してきていることがわかりました。学級担任を中心に、「子どもたちとの会話を多くしている」ことと、2学期の保護者アンケートにも出ているとおり、「お家でもお子さんの話を丁寧に聞いていただいている」ことが、少しずつ表れてきているものと感じています。「自分はよいところがある」を、今後も伸ばしていくためにということで、一つだけお話しをさせていただきます。

今から30年も前の1991年秋の青森県の話になりますが、その年、台風によって、リンゴ農家が育てていたリンゴの9割くらいが、収穫する前に木から落ちてしまったそうです。1年かけて育ててきたリンゴが、落ちてしまったということは、収入も大きく減ってしまうわけですので、リンゴ農家にとっては、大きな痛手です。しかし、この苦しい状況を、あるアイデアが救ったそうです。それは、落ちずに残った残り1割のリンゴを、「落ちないリンゴ」という名前で、縁起のいいものとして、受験生に買ってもらおうというアイデアでした。値段は、1個1000円くらいだったそうですが、この「落ちないリンゴ」は、飛ぶように売れて、あっという間に完売したそうです。この収益は、どれだけリンゴ農家にとってありがたかったことでしょうか。すごいアイデアです。

このお話は、子どもを育てていく上で、私たち教職員にも、保護者のみなさんにも、大切なことを教えてくれているのではないかと思います。このリンゴのアイデアは、「視点を変える」。つまり「見る場所とか方向を変えることで生まれたアイデア」です。落ちてしまって、もう木には「ないリンゴ」ではなく、落ちずにまだ木に「あるリンゴ」に目を向けているということです。私たちは、ついつい「あればいいのに」と思うこと…つまり「今はないこと」に目を向けて、うらやましがったり、ないからだめなんだとがっかりしたりしてしまいます。私自身の子育てを振り返ってみても、「陸上部なんだから、誰々さんのように、もっと足が速ければ応援のしがいがあるんだけどなあ」「自分は国語の先生なのに、この子は国語が得意そうじゃないなあ」「もっとグループのリーダーとして活躍してほしいんだけど…人前が苦手そうだな」というふうに見ていたように思います。そんなふうに見ていたなら、その思いは、知らず知らずのうちに子どもにも伝わっていたのではないかなと思うのです。「自分はこれができないからだめなんだ。それでお父さん、お母さんはがっかりしているんだ」と思うってしまうかもしれません。今では、自分の子どもに「かわいそうなことをしたな…」と思うことがあるのです。我が子にないところを見てがっかりするのは、台風で落ちてしまった「今は木にはないリンゴを見ている」と同じですよね。青森のリンゴ農家が、がっかりだけで終わらず、現在、木にしっかりとついているリンゴに目を向けることで、「新たな未来」が生まれたように、私たちも「目の前の子どもたちがもっているもの」を、しっかりと認めて、それを生かして、自信をもたせることが大切なのではないかと思います。本来もっている「自分の子のいいなあ」を、「こんなふうにやってみたらもっとおもしろいかも」というように、言葉にして伝えてあげることで、子ども自身も「自分のよさ」を伸ばしていこうと思うのではないのでしょうか。

もちろん、このことは、みなさんだけをお願いすることではなく、私たち教職員全員も、常に心に留めておかなければならないことです。ですから、ご家庭と学校が同じ方向を向いて、さらに子どもたちに寄り添っていきたいものだと思います。

最後になりますが、令和2年度も、温かいご支援、ご協力をたくさんいただきまして、誠にありがとうございました。教職員一同、気持ちよく仕事をすることができました。でも、令和2年度は、「まだ1ヶ月」もあります。先生方は、「まだまだできる!」という思いで1ヶ月に臨んでいきますので、この後も、何卒よろしくお願いたします。

